

## 栃木県市貝町の給与・定員管理等について

### 1 総括

#### (1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (21年度末)	歳 出 額 A	実 質 収 支	人 件 費 B	人 件 費 率 B/A	(参考) 20年度の人件費率
21年度	人 12,479	千円 4,967,397	千円 256,674	千円 989,154	% 19.9	% 21.7

#### (2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

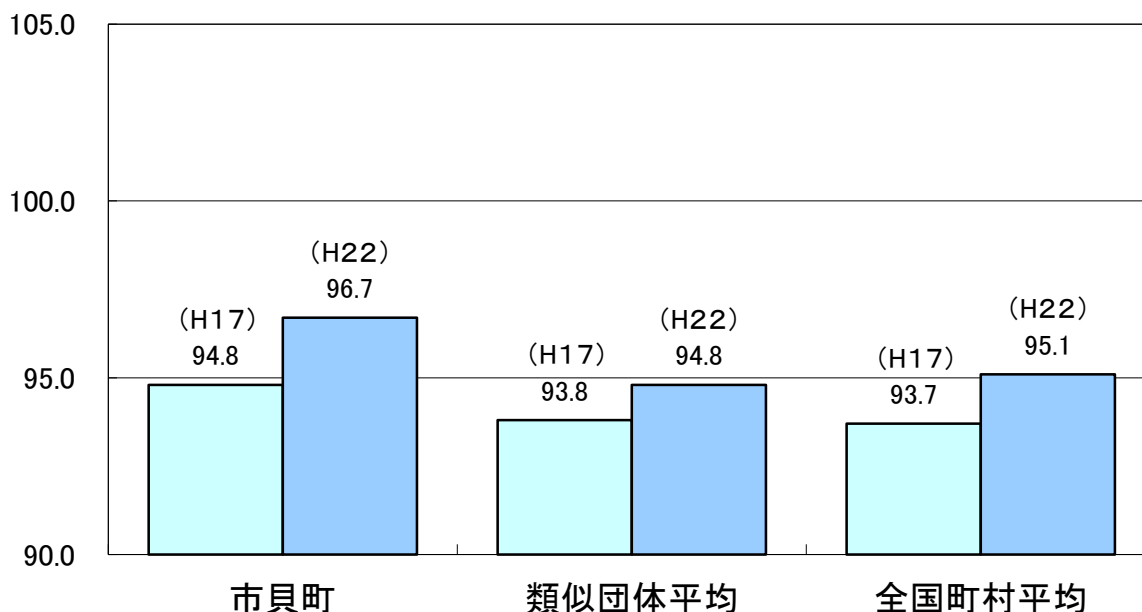
区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)類似団体平均 一人当たり給与費 千円
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
21年度	人 105	千円 433,286	千円 34,142	千円 159,370	千円 626,798	千円 5,970	千円 5,641

(注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
2 職員数は、21年4月1日現在の人数である。

#### (3) 特記事項(給与抑制措置)

対 象 者	措置対象	措置内容	期 間
町 長	給料月額	30%削減	平成21年12月1日から当分の間
教 育 長	給料月額	12%削減	平成22年4月1日から当分の間

#### (4) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



(注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である。  
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

## (5) 給与改定の状況

### ①月例給

区 分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)		
22年度	円 394,909	円 395,666	円 △ 757 (△0.19%)	% △ 0.19	% △ 0.19	% △ 0.19

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレース比較した平均給与月額

### ②特別給

区 分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)		
22年度	月 3.97	月 4.15	月 △ 0.18	月 △ 0.2	月 3.95	月 3.95

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

## 2 一般行政職給料表の状況 (22年4月1日現在)

(単位：円)

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
1号給の 給料月額	135,600	185,800	222,900	261,900	289,200	320,600	-	-	-	-
最高号給の 給料月額	243,700	309,000	356,600	390,500	403,000	425,100	-	-	-	-

(注) 給料月額は、給与抑制措置を行う前のものである。

## 3 職員の平均給与月額、初任給等の状況

### (1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (22年4月1日現在)

#### ①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
市貝町	43.4 歳	328,800 円	353,311 円	342,987 円
栃木県	44.1 歳	337,088 円	414,738 円	369,385 円
国	41.9 歳	325,579 円	-	395,666 円
類似団体	43.1 歳	319,960 円	361,213 円	344,564 円

#### ②技能労務職

区 分	公務員				
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)
市貝町	52.5 歳	19 人	289,400 円	297,248 円	297,399 円
うち 学校給食	54.4 歳	9 人	291,500 円	294,974 円	291,500 円
うち 公 仕	53.1 歳	7 人	294,600 円	302,957 円	294,600 円
栃木県	47.1 歳	467 人	313,311 円	362,489 円	340,386 円
国	49.3 歳	3,955 人	284,514 円	-	322,291 円
類似団体	49.9 歳	10 人	272,138 円	286,971 円	280,757 円

区 分	参 考		
	年収ベース(試算値)の比較		
	公務員(C)	民間(D)	C/D
市 員 町	—	—	—
うち 学 校 給 食	4,739,788 円	3,553,900 円	1.33
うち 公 仕	4,888,884 円	3,008,200 円	1.63

- ※ 民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。(平成20年～22年の3ヶ年平均)
- ※ 技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているもの
- ※ 年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を1.2倍したものに、公務員において支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

## (2) 職員の初任給の状況 (22年4月1日現在)

区 分		市 員 町	栃 木 県	国
一般行政職	大 学 卒	161,600 円	178,800 円	172,200 円
	高 校 卒	140,100 円	144,500 円	140,100 円
技能労務職	高 校 卒	137,200 円	140,100 円	—
	中 学 卒	129,200 円	129,200 円	—

## (3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況 (22年4月1日現在)

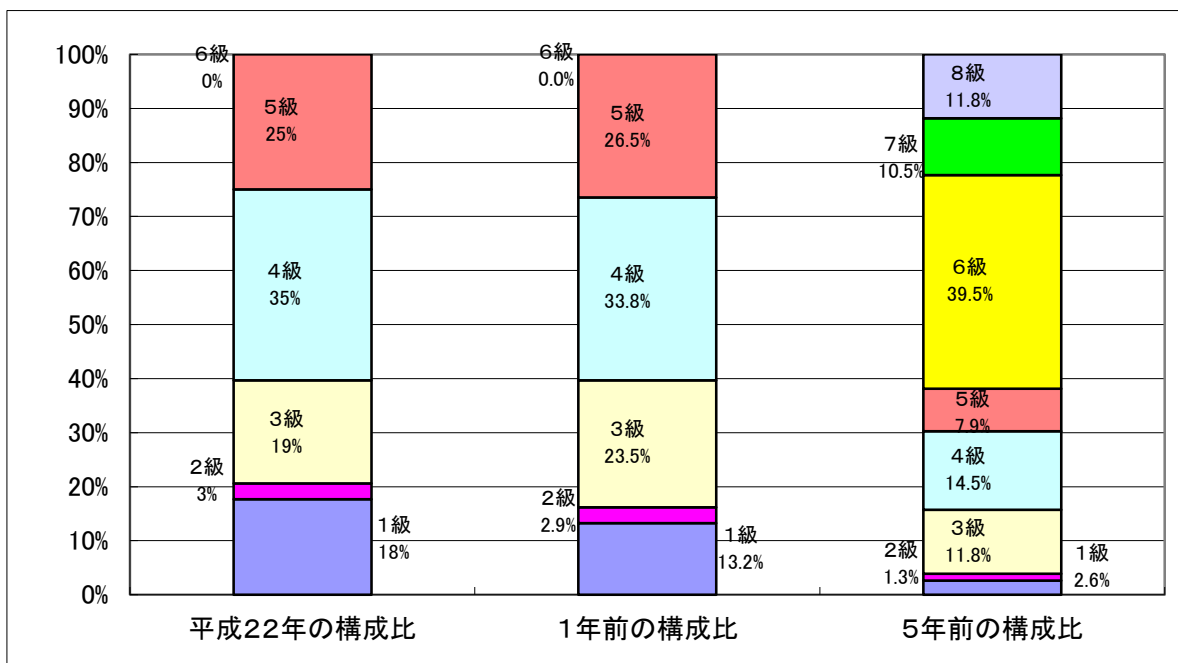
区 分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大 学 卒	248,600 円	293,700 円	355,400 円
	高 校 卒	222,000 円	275,300 円	317,300 円
技能労務職	高 校 卒	203,600 円	247,200 円	276,100 円
	中 学 卒	— 円	— 円	— 円

## 4 一般行政職の級別職員数等の状況

### (1) 一般行政職の級別職員数の状況 (22年4月1日現在)

区 分	標準的な職務内容	職員数	構成比
6 級	課長	0 人	0 %
5 級	課長、課長補佐	17 人	25 %
4 級	課長補佐、係長、主幹	24 人	35 %
3 級	副主幹、主査	13 人	19 %
2 級	主事	2 人	3 %
1 級	主事、主事補	12 人	18 %

- (注) 1 市員町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
- 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 平成18年に8級制から6級制に変更している。(旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合)

## (2) 昇給への勤務成績の反映状況

勤務期間の実績等を除いて全職員一律標準として昇給を実施した。

## 5 職員の手当の状況

### (1) 期末手当・勤勉手当

市 貝 町	栃 木 県	国
1人当たり平均支給額(21年度) 1,581 千円	1人当たり平均支給額(21年度) 1,698 千円	—
(21年度支給割合) 期末手当 2.8 月分 ( 1.5 )月分 勤勉手当 1.40 月分 ( 0.7 )月分	(21年度支給割合) 期末手当 2.8 月分 ( 1.5 )月分 勤勉手当 1.40 月分 ( 0.7 )月分	(21年度支給割合) 期末手当 2.8 月分 ( 1.5 )月分 勤勉手当 1.40 月分 ( 0.70 )月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 15~22%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 10~25%

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

### 【参考】 勤勉手当への勤務実績の反映状況 (一般行政職)

- 勤務成績の評定の実施状況  
地方公務員法第40条の規定に基づき、12月時に試行的にはありましたが、課長職のみ勤務成績の評定を実施しました。
- 勤勉手当への勤務実績の反映方法  
12月時に試行的に、課長職のみ反映させました。  
平成23年度からは、全職員について反映させていく予定です。

(2) 退職手当（22年4月1日現在）

市 員 町			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.50 月分	30.55 月分	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分
勤続25年	33.50 月分	41.34 月分	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分
勤続35年	47.50 月分	59.28 月分	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分
最高限度額	59.28 月分	59.28 月分	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分
○その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2~20%加算)			○その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2~20%加算)		
○1人当たり平均支給額 — 千円 22,157 千円					

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、21年度に退職した職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当 該当なし

(4) 特殊勤務手当（22年4月1日現在）

支給実績(21年度決算)				12 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(21年度決算)				5,800 円
職員全体に占める手当支給職員の割合(21年度)				1.8 %
手当の種類(手当数)				3
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価	
	感染症予防に作業に従事した職員	感染症の予防作業	日額 1,000円	
	行旅死亡人等の収容作業に従事した職員	行旅死亡人死体収容作業	1体 3,000円	
	動物死体処理作業に従事した職員	公共の場所における動物死体処理作業	1件 200円	

(5) 時間外勤務手当

支給実績(21年度決算)	3,255 千円
職員1人当たり平均支給年額(21年度決算)	46,496 円
支給実績(20年度決算)	4,422 千円
職員1人当たり平均支給年額(20年度決算)	55,972 円

(6) その他の手当（22年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(21年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(21年度決算)
扶養手当	配偶者 13,000円 配偶者以外の子等 6,500円 配偶者がいない場合1人目11,000円 満16歳から22歳の子1人につき5,000加算	同		8,990 千円	219,268 円
住居手当	貸家等 12,000円を超える家賃に応じて支給(支給限度額27,000円)	同		1,973 千円	131,533 円
通勤手当	自家用車利用者 距離区分(片道2km以上)に応じて2,400円から18,000までを支給 交通機関利用者 月額55,000円以下について運賃相当額を支給	異		5,775 千円	62,775 円
管理職手当	課長・局長・室長に支給 月額 給料月額×9%			2,786 千円	309,574 円
宿日直手当	週休日等の当直 4,200円/1回 月曜～金曜の当直 2,100円/1回			1,016 千円	26,042 円

## 6 特別職の報酬等の状況（22年4月1日現在）

区 分		給 料		月 額		等
給 料	市区町村長	518,000 円		(参考)類似団体における最高/最低額		
	( 740,000 円 )			871,000 円	518,000 円	
報 酬	副 町 長	600,000 円				
	( 600,000 円 )			676,000 円	429,800 円	
報 酬	議 長	340,000 円				
	( 340,000 円 )			380,000 円	243,000 円	
	副 議 長	280,000 円				
	( 280,000 円 )			285,000 円	192,000 円	
報 酬	議 員	250,000 円				
	( 250,000 円 )			261,000 円	175,000 円	
期 末 手 当	市区町村長	(21年度支給割合)				
	副 町 長 収 入 役	3.10		月分		
期 末 手 当	議 長	(21年度支給割合)				
	副 議 長 議 員	3.10		月分		
退 職 手 当	市区町村長	(算定方式)		(1期の手当額)	(支給時期)	
	副 町 長	給料月額×在職月数×550/100÷12		11,396千円	任期毎	
	備 考	給料月額×在職月数×330/100÷12		7,920千円	任期毎	

- (注) 1 給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額である。  
 2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

## 7 職員数の状況

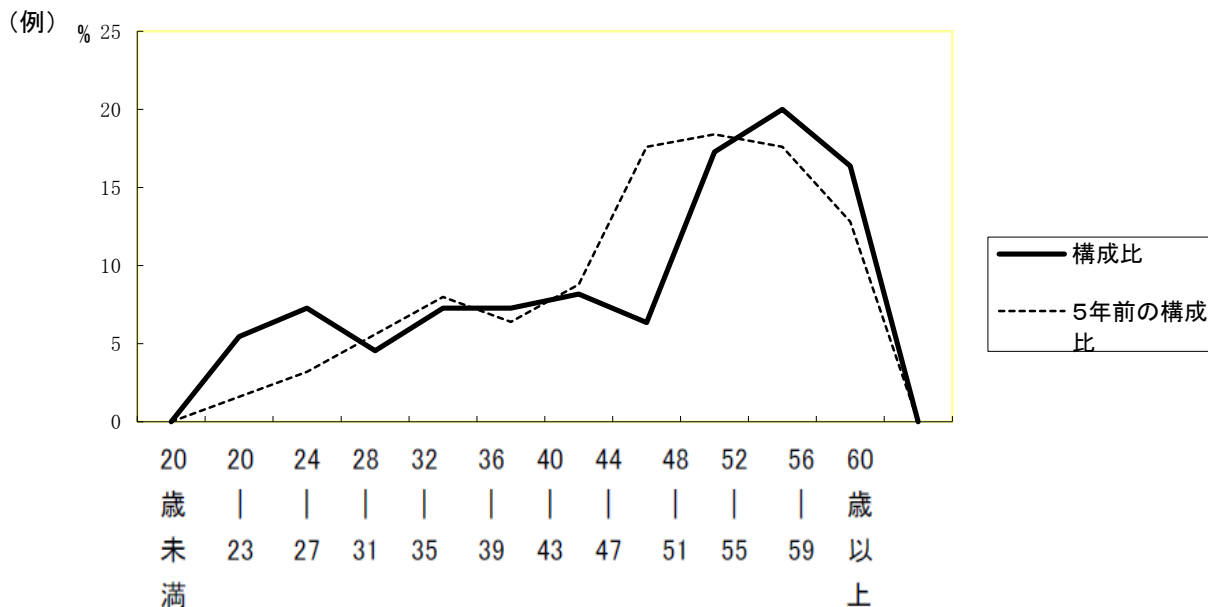
### (1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

部 門	区 分	職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由	
		平成22年	平成21年			
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	2	2	0	一昨年度以前に欠員不補充とした分の欠員補充による増 将来の保育所民営化に向けた、保育士の退職者不補充による減 事業の見直し(縮小)による減
		総 務	19	18	1	
		税 務	9	9	0	
		民 生	18	20	△ 2	
		衛 生	8	8	0	
		農林水産	8	8	0	
商 工		3	4	△ 1		
土 木	6	6	0			
	計	73	75	△ 2	<参考> 人口1万人当たり職員数 58.50 人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 83.5 人)	
	教育部門	27	31	△ 4	現業職員退職不補充及び兼務であった図書館長の嘱託による減	
	消防部門					
	小 計	100	106	△ 6	<参考> 人口1万人当たり職員数 80.13 人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 106.04 人)	
公 営 企 業 計 等 部 門	下水道	3	3	0		
	その他	8	8	0		
	小 計	11	11	0		
合 計		111	117	△ 6		
		[ 133 ]	[ 133 ]	[ ]		

- (注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。  
 2 [ ]内は、条例定数の合計である。

(2)年齢別職員構成の状況（22年4月1日現在）



区分	20歳未満	20歳~23歳	24歳~27歳	28歳~31歳	32歳~35歳	36歳~39歳	40歳~43歳	44歳~47歳	48歳~51歳	52歳~55歳	56歳~59歳	60歳以上	計
職員数	0人	6人	8人	5人	8人	8人	9人	7人	19人	22人	18人	0人	110人

(3)職員数の推移

部門別	17年	18年	19年	20年	21年	22年	過去5年間の増減数(率)
一般行政	88	84	82	77	75	73	△15 (△17%)
教育	31	31	31	32	31	27	△4 (△13%)
消防	-	-	-	-	-	-	- (-%)
普通会計計	119	115	113	109	106	100	△19 (△16%)
公営企業等会計計	7	10	11	11	11	11	4 (57%)
総合計	126	125	124	120	117	111	△15 (△12%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。  
 2 合併した団体にあつては、合併前の年については合併前の旧団体の合計職員数。